



沖繩の建築

知るついでに話そうーおきなわの底力

4	2	1
5	3	
6		
7		

- 1.名護市役所／シーサー、アサギテラス、花ブロック、屋上緑化などのアイデアが詰め込まれ、その後の沖縄の建築物に影響を与えたといわれている。日本建築学会作品賞を受賞。
- 2.国立劇場おきなわ／「琉球王朝時代の家屋や祭祀建築（神あしやぎ）をモチーフとし、外壁は網代（あじろ）状の竹組みの意匠をイメージしている。」
- 3.那覇市民会館／神あしやぎをモチーフにした深い軒、ヒンパンをイメージした石積み風の塀が印象的。「DOCOMOMO JAPAN 150選」に選ばれている。
- 4.聖クララ教会／雨を集め貯水槽へと導くV字のバタフライ屋根と花ブロックが印象的なモダンな佇まいは「DOCOMOMO JAPAN 150選」にも選ばれている。
- 5.南城市文化センターシュガーホール／周りにさとうきび畑が広がることから名付けられた。地域のランドマーク的役割を果たしている。日本建築学会作品選奨を受賞。
- 6.今帰仁村中央公民館／緑の芝生に映える276本の真っ赤なコンクリートブロックの柱が並ぶ開放的造り。1977年の芸術選奨文部大臣賞を受賞。
- 7.中村家住宅／18世紀の中頃に建てられた豪農の住宅。土族屋敷の形式に高倉・納屋・畜舎などが付随し、沖縄の住居建築の特色すべてを備え持つ。国指定重要文化財。



島田 潤さん

一級建築士 株式会社デザインネットワーク代表取締役 日本建築家協会沖縄支部 支部長・本部理事 沖縄建築士会会員「光と風そして風土」をテーマに、耐久性の高いコンクリートと温かみのある木造を取り入れたハイブリッドな沖縄にふさわしい住宅を提案している。

気候風土が育んだ
実用性と美を備えた沖縄らしい家

亜熱帯海洋性気候に属し、1年を通して気温差が小さく温暖である一方、高温多湿で夏場には何度も台風が襲来する沖縄。そんな気候風土によって形づくられたのが沖縄の伝統的な家屋です。赤瓦を漆喰でしっかりと固め低く構えた奇棟の赤瓦屋根は強い風雨に耐え、雨端と呼ばれる深い軒は日陰をつくりながら雨が入り込むのを防ぐなど、さまざまな知恵と工夫が凝らされています。戦後は堅牢なコンクリート住宅が主流となり、家の佇まいは変化しましたが、ここにも南国ならではの知恵が息づいています。「沖縄では、夏に対してどうあるかということが建築のテーマ。雨端をモチーフにした半外部空間の創出、風を通す花ブロックの多用、遮熱に有効な塗料など、涼やかさの演出は大きなポイントです。さらに、近年はエコも重要な課題。これからは優れた断熱効果のある屋上緑化が有効だと思いますね」と話してくれたのは日本建築家協会沖縄支部・支部長の島田潤さん。

風土によって育まれた沖縄の建築。進化しながら新たな沖縄らしさを育んでいます。

